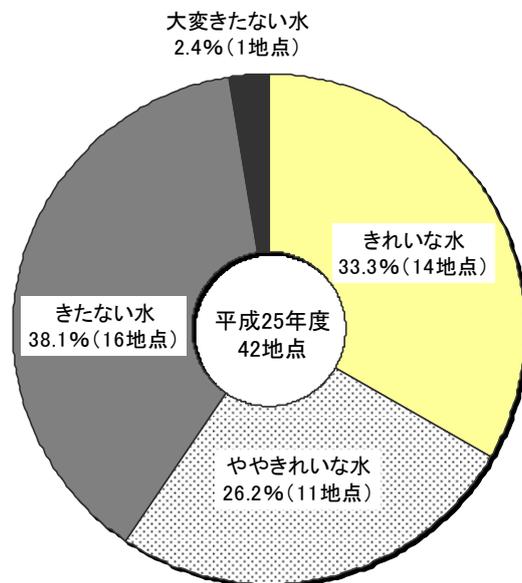


## 2. 調査結果

### (1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図-1に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は14地点(33.3%)、“ややきれいな水”と判定された地点は11地点(26.2%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は16地点(38.1%)、“大変きたない水”と判定されたのは1地点(2.4%)であった。



<図-1> 水質階級別調査地点数の割合

### (2) 前年度に対する水質階級の比較

平成25年度の調査地点42地点のうち38地点が平成24年度と同じ地点での調査であった。これらの38地点の水質階級を比較すると、同じであったところが20地点、よくなったところが6地点、悪くなったところが12地点であった。(表-2)

<表-2> 前年度に対する水質階級の比較(前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度よりよくなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	6	20	12	38
割合 (%)	15.8	52.6	31.6	100

### (3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表-3、調査地点における水質階級を図-2に示す。

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表-4のとおりである。

平成25年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、シマイシビルであった。

<表-4> 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物 (○+●)		出現割合 (%)	優占種 (●)	
		頻度 (回)	割合 (%)		頻度 (回)	割合 (%)
I きれいな水	1 アミカ類	0	0.0	30.1	0	0.0
	2 ナミウズムシ	8	3.5		2	2.7
	3 カワゲラ類	11	4.8		2	2.7
	4 サワガニ	8	3.5		4	5.5
	5 ナガレトビケラ類	8	3.5		1	1.4
	6 ヒラタカゲロウ類	17	7.4		7	9.6
	7 ブユ類	2	0.9		1	1.4
	8 ヘビトンボ	5	2.2		1	1.4
	9 ヤマトビケラ類	7	3.1		1	1.4
	10 ヨコエビ類	3	1.3		1	1.4
II ややきれいな水	11 オオシマトビケラ	10	4.4	26.2	3	4.1
	12 カワニナ類	18	7.9		10	13.7
	13 ゲンジボタル	2	0.9		1	1.4
	14 コオニヤンマ	6	2.6		0	0.0
	15 コガタシマトビケラ類	12	5.2		3	4.1
	16 ヒラタドロムシ類	12	5.2		3	4.1
III きたない水	17 タニシ類	17	7.4	25.8	6	8.2
	18 シマイシビル	25	10.9		16	21.9
	19 ミズカマキリ	3	1.3		0	0.0
	20 ミズムシ	14	6.1		3	4.1
IV きとたない水	21 アメリカザリガニ	9	3.9	17.0	2	2.7
	22 エラミミズ	9	3.9		3	4.1
	23 サカマキガイ	9	3.9		1	1.4
	24 ユスリカ類	9	3.9		2	2.7
	25 チョウバエ類	3	1.3		0	0.0
汽水域	26 イシマキガイ	0	0.0	0.9	0	0.0
	27 ヤマトシジミ	0	0.0		0	0.0
	28 イソコツブムシ類	0	0.0		0	0.0
	29 ニホンドロソコエビ	2	0.9		0	0.0
合計		229	100	100	73	100

汽水域:海水の少し混ざっているところ

(注)割合については四捨五入のため、合計が100%にならないことがある。